

令和4年度  
新時代に対応した高等学校改革推進事業  
(普通科改革支援事業)

研究実施報告書  
第1年次

岩手県立大槌高等学校



## 巻 頭 言

岩手県立大槌高等学校 校長 継枝 齊

大槌町と連携・協働した高校魅力化事業をはじめて4年、この文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」をはじめてあっという間に1年が経とうとしています。この間、多くの方々のご支援・ご協力をいただき、様々な取組を進めることができましたことに心から感謝申し上げます。

この事業を始める以前、平成30年の冬に大槌町において大槌高校魅力化構想会議が発足し、その時点から町と高校が協働して大槌高校魅力化が進み始めました。同時に平成31年度（令和元年度）から昨年度までの3年間、文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に取り組みました。東日本大震災津波に起因する急激な人口流出と少子化、それに伴う生徒数減少と高校統廃合問題、それらの解決策として始まった高校魅力化でした。町の復興の過程の中で、互いに助け合い、生徒も大人に混ざって地域づくりに参加し、生徒たちは学校の中の学習だけでは得ることができない力を育みました。地域や探究活動には計り知れない学びの機会があります。教員は、地域での学びや探究活動によって生徒がどんどん成長していくことを目の当たりにし、生徒も自身の成長をはっきりと認識し自分の発案が地域の何かを変えられることにも気づきました。生徒の資質・能力を育てるために普通科の枠を超えてこの地域協働や探究活動と言った学びの形を更に発展させることはごく自然な流れだと感じます。

こうした背景に接続して始まった本事業は、今年度3つのワーキンググループ（WG）に分かれてそれぞれ活動しております。カリキュラムWG、周知・広報WG、そしてDXWGです。詳しくは報告書の中で述べられますが、カリキュラムWGでは生徒の話し合いを数回行い、その後アンケート調査を実施いたしました。意外にも生徒たちからは学び直しをしたいという希望が多く出ました。また、周知・広報WGは各学年の生徒たちの取り組み成果を町内の商業施設や文化交流施設に展示し、本校の取り組みの状況を地域の方々に見ていただく活動を行っております。この活動は来年度以降の学科再編に向けた布石となります。DXWGでは、個別最適な学びに向けてICTを活用した授業実践を行っております。いずれは、大学のオンライン講義の受講の単位化等につながっていくものです。また、新学科を考えれば考えるほど、既存の普通科をどうするかという課題が避けては通れないものとなりました。新学科の科目選択の自由度が増せば増すほど、既存の普通科の不自由さが対照的にはっきりとしてくるのです。本校では、新学科の中で既存の普通科的な選択ができるように組み立て、新学科1つにまとめる方向に舵を切りました。

今年度のこの事業の活動がここまで形あるものにできたのは、忙しい中においても生徒と親身に向き合いながら、この事業を自分事として捉え進めてきた本校教職員と大槌町の役場の皆さん、大槌町議会の皆さんのおかげです。このチームだからこそやってこられたと強く感じております。

末筆になりましたが、地域協働や探究活動に不慣れな我々教職員の行き先を明るく照らし導いてくれた、3名のコーディネーターの菅野祐太さん、三浦奈々美さん、小野寺綾さん、そして高校側の無理なお願いも聞き、東西に奔走してくださった黒澤直美さんはじめ大槌町教委の皆さんに感謝を申し上げ、巻頭の言といたします。

## 目 次

巻頭言	1
目次	2
I 研究開発実施報告（概要）	3
令和5年度成果概要図	4
事業完了報告書	5
II 研究開発の内容（詳細）	25
1 会議関係	26
(1) 魅力化構想会議・コンソーシアム会議	26
(2) 運営指導委員会	29
(3) 普通科改革研究協議会	32
2 ワーキンググループにおける検討について	36
(1) カリキュラムWGにおける検討について	36
(2) DX等教育方法検討WGにおける検討について	43
(3) 周知・広報WGにおける検討について	46
3 学校設定教科「地域みらい学」	49
(1) 三陸みらい探究	49
ア*1年生の取組	50
イ 2年生の取組	65
ウ 3年生の取組	78
(2) ひょっこり表現島（国語）	86
(3) まちづくり探究（地歴公民）	87
(4) くらしまath（数学）	88
(5) おおつちラボ（理科）	89
(6) Eパスポート（英語）	90
*「総合的な探究の時間」で実施	
4 目標の進捗状況、成果、評価	91
(1) 資質・能力調査について	91
(2) ルーブリックを活用した評価について	94
III 参考資料	97
◇目標設定シート	98
◇学科検討の報告	100
◇学校評価システムによる評価結果	101

# I 研究開発実施報告（概要）

## 【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（設置 令和6年度予定）

「大海を航る大槌（ハンマー）を持つとう」を実現し、「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う魅力的な学びの環境を地域と共に創る

- ・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現
- ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現

- ①生徒自らが選択・調整できる学び
- ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる
- ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び
- ④個別最適なリアル教育の実践

特色・魅力ある教育の概要

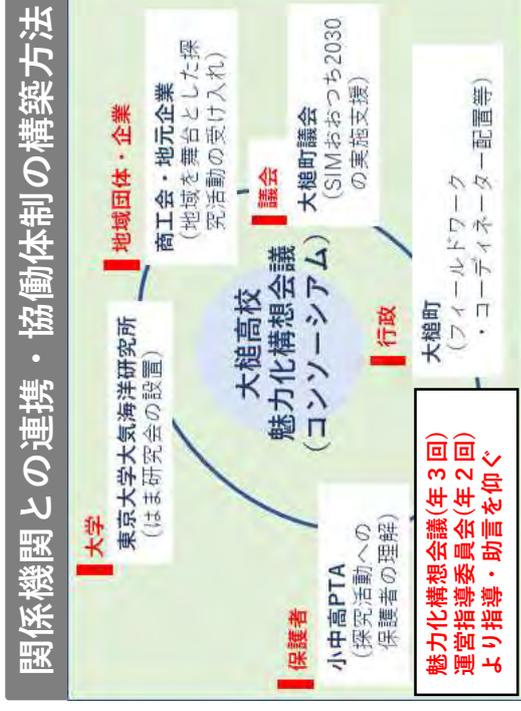
### 令和4年度の目標

- ①新学科開設に向けて校内体制の整備
  - ア) 学び続けることの意義を実感できるカリキュラム開発
  - イ) ICTを活用した教育方法の検討
  - ウ) 地域に向けた高等学校の取組についての周知

②地域を題材とした探究の実践と充実

③先進校事例の収集と情報交換の実施

④コーディネーターの有機的活用



### 成果と課題

- ①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置
 

成果：全教員が事業に主体的に関わる体制作りの構築（全体）

生徒・保護者・地域の声を反映させたカリキュラムの検討（カリキュラム）

ICTを活用した研究授業の実施、校務の効率化（DX）

探究発表会や取組展示等を通して、地域への活動周知（周知・広報）

課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）

カリキュラム完成に向けた関係機関との調整（カリキュラム）

実証振り返りと個別最適化を目指す授業の提案（DX）

中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知方法の検討（周知・広報）
- ②地域を題材とした探究の実践と充実
 

成果：地域社会に暮らす人々と協働することで、自らの人生を切り拓こうとする生徒の増加

課題：地域課題がなせ生じているかその背景について考える
- ③先進校事例の収集と情報交換の実施
 

成果：多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携等について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた

課題：他校交流をさらに深め、先進校研究の進展
- ④コーディネーターの有機的活用
 

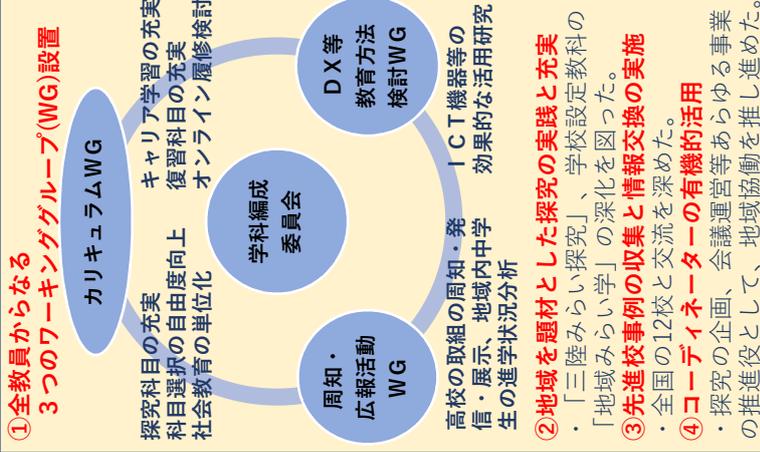
成果：探究カリキュラムの充実、地域と学校を繋ぐ役割を担った

課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネーターの教員への伝達
- ⑤高校魅力化評価システムの調査結果
 

成果：社会性に関わる項目が県平均を大きく上回り、魅力的な学びの環境を地域と共に創るといふ事業構想の具現化を確認

課題：詳細を検証し、今後にいかす

### 取組状況



令和5年3月31日

## 事業完了（廃止）報告書

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

（受託者）住 所 岩手県盛岡市内丸10番1号

名称及び 岩手県知事

代表者名 達 増 拓 也

令和4年7月8日付け、新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革事業）は、令和5年3月31日に完了したので委託契約書第10条の規定により、下記の書類を添えて報告いたします。

記

- 1 事業結果説明書（別紙イ）
- 2 事業収支決算書（別紙ロ）

(別紙イ)

## 事業結果説明書

### 第1 事業の実績

#### 1 事業の実施日程（令和4年度）

##### (1) カリキュラム検討

事業項目			実施日程
第1回学科編成委員会（検討テーマとスケジュール確認）			8月29日（月）
第2回学科編成委員会（検討テーマ協議）			9月26日（月）
第3回学科編成委員会（協議及び報告）			12月22日（木）
第4回学科編成委員会（報告と学科の方向性確認）			1月26日（木）
3つのWG（ワーキンググループ）における検討			
会議	カリキュラムWG	DX等教育方法検討WG	周知・広報WG
第1回	8月5日（金）	7月28日（木）	8月5日（金）
第2回	8月18日（木）	8月1日（月）	10月5日（水）
第3回	9月5日（月）	8月18日（木）	10月13日（木）
第4回	9月20日（火）	9月21日（水）	12月12日（月）
第5回	11月17日（木）	10月20日（木）	12月19日（月）
第6回	12月27日（火）	1月10日（火）	12月26日（月）
第7回	1月24日（火）	1月24日（火）	1月25日（水）
第8回	3月15日（水）	2月17日（金）	2月14日（火）
第9回	3月17日（金）	3月17日（金）	2月20日（月）

##### (2) 管理機関による実施体制

事業項目	実施日程
第1回コンソーシアム会議（指導・助言・訪問指導） 令和3年度事業報告並びに令和4年度事業計画を協議、承認	8月2日（火）
第1回運営指導委員会（指導・助言・訪問指導）	11月30日（水）
第2回コンソーシアム会議（指導・助言・承認・訪問指導）	12月23日（金）
第2回運営指導委員会（指導・助言・承認・オンライン）	2月27日（月）
第3回コンソーシアム会議（指導・助言・承認・訪問指導） 令和4年度事業報告・総括及び令和5年度事業計画を協議	3月20日（月）

(3) 高等学校における実施体制

事業項目	実施日程
<p>三陸みらい探究「第2回オンライン探究連携授業」</p> <p>連携校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校、茨城県立小瀬高等学校、第一学院高等学校、島根県立吉賀高等学校、宮崎県立高千穂高等学校</p> <p>参加生徒：256名（本校と上記高校を合わせた8校の2年生）</p> <p>講師：生徒の興味関心に合わせた社会人・大学生13名</p> <p>内容：講師のマイプロジェクトを聞き、自分の活動に活かす</p>	7月15日(金)
<p>三陸みらい探究「マイプロジェクト・フィールドワーク」</p> <p>発表生徒：58名（2年生）</p> <p>講師：町内の社会人31名</p> <p>内容：プロジェクトテーマに関する体験活動、インタビュー</p>	7月20日(水)
<p>総合的な探究の時間「大槌発未来塾」</p> <p>参加生徒：1年生59名 2年生58名</p> <p>講師：三陸花ホテルはまぎく総支配人 立花 和夫氏 大槌町産業振興課 佐々木健介氏 塗師屋 谷藤 怜美氏 NPO 法人吉里吉里国事務局長 松永いづみ氏 大槌町スクールソーシャルワーカー 南 景元氏 一般社団法人SUMICA 副代表理事 佐々木敦代氏 NPO 法人環境パートナーシップいわて 坂下 慶夏氏 株式会社ヘラルポニー 丹野晋太郎氏 宮城大学事業構想学群2年 君島 真叶氏 弘前大学人文社会学部2年 倉本 岳氏</p> <p>内容：社会人や大学生による人生講話</p>	10月3日(月)
<p>おおつちラボ「SDGsと岩手大槌サーモン」</p> <p>参加生徒：30名（3年生教養コース）</p> <p>講師：大槌町産業振興課一次産業活性化班 黒澤勉氏</p>	10月24日(月)
<p>三陸みらい探究「第3回オンライン探究連携授業」</p> <p>連携校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校</p> <p>参加生徒：119名（本校と上記高校を合わせた4校の2年生）</p> <p>実施内容：各校で実施している探究活動の中間報告</p>	11月2日(水)
<p>総合的な探究の時間「SIM おおつち町内フィールドワーク」参加生徒：1年生（59名）</p> <p>役場協力：大槌町産業振興課、健康福祉課、生涯学習課、企画財政課、協働地域づくり推進課</p> <p>視察協力：大槌復光社共同組合、つつみこども園、大槌町観光交流協会、(一社)大槌新聞社、大槌町郷土芸能保存団体連合会、(株)三陸鉄道</p> <p>内容：大槌町の行政事業に関するヒアリング、地域課題に関連する視察先での調査活動</p>	11月4日(金)
<p>SIM おおつち「ラーニングジャーニー」参加生徒：1年生（59名）</p> <p>視察先：大船渡市、宮古市、花巻市、陸前高田市、気仙沼市、釜石市</p> <p>内容：自治体・民間団体の地域課題解決に向けた取組視察</p>	12月5日(月)

まちづくり探究「防潮堤建設是非の意思決定過程」 参加生徒：25名（3年生教養コース） 場所：安渡・赤浜の海岸、安渡公民館	12月13日（火）
マイプロジェクトアワード岩手県 summit 参加者：1・2年生18名 場所：岩手県立大学	1月22日（日）
三陸みらい探究「“私が18年間で身につけた大槌と知見”発表会」 発表生徒：49名（3年生） 内容：18年間の学びを総括したプレゼンテーション	2月4日（土）
三陸みらい探究「第4回オンライン探究連携授業」 連携校：山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校 参加生徒：119名（本校と上記高校を合わせた4校の2年生） 実施内容：各校で実施している探究活動のまとめ	2月17日（金）
探究発表会「私たちの“大槌”見てけでさフェスタ」 場 所：大槌町文化交流センターおしゃっち 参加者：学校関係者以外230名（町内160名、町外70名）、教職員24名、生徒100名 内 容：第1部「大槌町の課題解決アイデア発表会（1年生）」（生徒54名） 第2部「マイプロジェクト活動成果発表会（2年生）」（生徒46名） 第3部「研究協議会『小規模普通科高校の未来を語る』」 講 師：中川覚敬氏（文部科学省初等中等教育局教科書課課長補佐 ・前岩手県教育委員会学校教育室学校教育企画監） 酒井淳平氏（立命館宇治中学校・高等学校キャリア教育部長）	2月23日（木）

#### （４）運営指導委員会の体制

事業項目	実施日程
第1回運営指導委員会（大槌高校）	11月30日（水）
第2回運営指導委員会（オンライン）	2月27日（月）

#### （５）コンソーシアム体制

事業項目	実施日程
第1回コンソーシアム会議（第12回大槌高校魅力化構想会議）（大槌高校）	8月2日（水）
第2回コンソーシアム会議（第13回大槌高校魅力化構想会議）（おしゃっち）	12月23日（金）
第3回コンソーシアム会議（第14回大槌高校魅力化構想会議）（おしゃっち）	3月20日（月）

## 2 事業の実績の説明

### (1) 高等学校における事業の実施体制・管理方法

#### ア 事業の対象

学校名	岩手県立大槌高等学校	校長名	継枝 斉
学科の種類	地域社会学科	新学科の名称	地域社会学科（仮）
新学科の定員	80名（40名より変更申請）	設置年度	令和6年度（予定）

#### イ 事業の実施体制・管理方法

校長の下で、副校長とカリキュラム開発等専門家が事業の企画・運営の中心となり新学科設置に向けて準備を進めている。なお、校内には、全職員からなる3つのワーキンググループ（カリキュラム、DX等教育方法検討、周知・広報）（以下WG）を設置している。WGで検討された内容は、校内の学科編成委員会で議論された後、職員会議で周知を図る。検討の進捗状況に関しては、岩手県教育委員会、運営指導委員会、コンソーシアム会議にそれぞれ報告し、指導・助言をいただいている。

#### ウ 各WGの取組

#### 令和4年度 ワーキンググループ(WG)所属一覧及び取組内容

◎WG長、○副WG長、□事務局

全体統括		校長 継枝 斉・副校長 竿代愛也		取組内容
1	カリキュラムWG	◎畠山 豪	○鈴木紗季	新学科のスクールポリシー策定 教科・探究学習のあり方検討 科目選択の拡充・弾力性向上の研究 進路保証できるカリキュラムのあり方検討 単位認定方法の研究 資質能力を基礎とした評価のあり方検討 評価ルーブリックの見直し
		□菅野祐太	赤崎琢哉	
		野田啓志	田中貴広	
		遠藤宗啓	小田原理香	
2	DX等教育方法検討WG	◎近藤健一	○菊池竜太	自己調整学習領域 教科・探究学習のあり方検討 校務の円滑な運用（Teams等活用） ICTを活用した教員の授業力向上 （生徒とのコミュニケーション） リメディアルアプリの活用（ICT活用による学び直し） 特別な配慮を要する生徒の支援の研究
		□小野寺綾	阿部成浩	
		木村直温	相馬史弥	
		木村有里	吉岡信行	
3	周知・広報WG	◎菊池直美	○伊勢美和	中学校への認知拡大 保護者・地域への広報・周知 学校説明会の企画の見直し 文化祭企画の見直し 探究発表会等の企画 地域協働についての研究協議会の企画
		□三浦奈々美	澤村勇一	
		村上百合子	菅原 準	
		菅野純大		

#### (ア) カリキュラムWG

カリキュラム策定が役割である。7月より2月まで7回のWG会合を実施した。7月から9月は他校の特色あるカリキュラムについて事例検討会を実施し、育てたい人物像を踏まえつつ新カリキュラム策定に向けての議論を進めた。10月には、「大槌高校をさらに魅力的な学校にするためには」、「大槌高校のカリキュラムをさらに魅力的なものにする

ためには」をテーマに普通科改革に関する生徒ワークショップを2回実施。同時に生徒アンケート、ヒアリングを実施。1月にはデュアルシステム導入に向けて軽井沢高校、和気閑谷高校からヒアリングを行った。現在、これまでの研究を基に令和6年度開設新学科のカリキュラム完成に向けて準備を進めている。

(イ) DX等教育方法検討WG

指導場面や校内事務におけるICT機器の効果的な活用研究が役割となる。8月から9月にかけてICT活用案の検討を進めた。また、この間、デジタル教材の比較検討も行った。10月からは、新時代に対応した生徒の学び方の検討及び教員の働き方の検討(校務の効率化)を進めた。1月から2月にかけては、5教科においてICTを活用した研究授業を実施した。今後は、実証振り返りと個別最適化を目指す授業を提案して行きたい。

(ウ) 周知・広報WG

設置目的は、高校改革における情報を周知し、地域を協働するパートナーへと転化させることである。7月から9月にかけて地域内の中学生の進学状況分析を行い、今後の広報活動の周知対象の検討材料とした。また、コロナ禍によって、地域との協働機会や生徒の学びを保護者や地域住民に見せる機会が減少していることから、10月の文化祭、2月の探究発表会における取組展示の実施を進めた。なお、この期間、町民施設おしゃっちやショッピングセンターでの取組展示を始めた。併せて町内施設を個別に回り、ポスター掲示の依頼を行った。今後は、町外にも掲示を拡大していく予定である。その他、高校の取組が広く見えるようにホームページやnoteでの情報発信を積極的に行った。

令和5年度に向けては、中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知の方法を検討していく。

(2) 新学科設置に向けた検討内容

ア 新学科設置の検討理由

- (ア) 多様な能力・適性、興味関心を持って入学した生徒に応じた学びを実現するため。
- (イ) Society5.0における現代的な諸課題やDX、人生100年時代の到来など急速な変化に対応できる生徒を育てるために、教科横断的な学びや新たな学問領域に即した特色・魅力ある学びに重点的に取り組むため。
- (ウ) 地域社会に暮らす人々と協働し探究活動を進めることで、生徒が暮らす地域の魅力や課題を明確化し、今後の地域社会にとって何が必要かを考える学びの場とするため。
- (エ) 東日本大震災以降、人口減少の続く当該地域において、ソフト面の復興を果たすために、高等学校が地域を支える人材の育成と地域における社会教育の拠点施設としての役割を担う必要があるため。

イ 新学科設置に向けた検討内容

- (ア) 普通科2学級のすべてを地域社会学科(仮)とする。
- (イ) 地域を題材とした探究の実践と充実に向けて、総合的な探究の時間「三陸みらい探究」、5教科において探究的な学びを教科横断的に実践する学校設定科目「地域みらい学」を進学・就職希望にかかわらず学ぶことができる教育課程の開発を行っている。
- (ウ) 新教育課程編成にあたっては、探究科目の充実、科目選択の自由度向上、社会教育の単位化、キャリア学習の充実(デュアルシステム導入)、復習科目の充実(リメディアル)、授業のオンライン履修の一部認可を盛り込んだ形を検討している。

(エ) コンソーシアムと職員室に常駐する3名のコーディネーターの配置を構築しており、大槌町役場をはじめ地域の企業や東京大学大気海洋研究所等の研究機関、地域の小中学校や教育に関わるNPOなどと連携や協働体制を強化している。

#### ウ 新学科設置による期待される効果

(ア) カリキュラムを見直すことで、多様な能力・適性、興味関心を持って入学した生徒が学習に対して意欲を持ち、生涯を通して学び続ける力の育成を図ることができる。

(イ) 教科横断的な学びや新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組むことで、予測不能な社会においてもありがたい未来を創造できる人材を育成することができる。

(ウ) 地域社会に暮らす人々と協働し、地域社会の発展に関わることで、自らの人生を切り開く力を身につけることができる。

(エ) 自立と社会参画に向けた生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な仕組みを整備することで、生徒が将来にわたって社会の持続的な発展に寄与できるようになるために必要な資質・能力の育成を図ることができる。

(オ) 「学科」に位置付けることで地域を中心としたより深い探究的な学びの場であることを学校内外に周知するとともに、中学段階にある生徒の高校選択の材料とすることができる。

#### エ 学科編成に関する検討

検討場面・日程	検討内容
普通科改革に関する職員研修 (令和4年5月16日)	普通科改革支援事業採択(4月15日)、計画書提出(5月13日)を受けて、小学科普通科2学級のうち、1学級を地域社会学科(仮)、1学級を普通科とすることで検討を進める方向であることを確認・周知する。
7月定例職員会議 (令和4年7月26日)	全教員からなる3つのWG(カリキュラム、DX等教育方法検討、周知・広報)を立ち上げ、検討に入ることを確認・周知する。
生徒全校ワークショップ(2回) ・ヒアリング・アンケート(1回) (令和4年10月)	生徒アンケートから、50%以上が「希望に合わせた科目選択制」を望み、特に文理コース(進学希望)所属生徒が探究的な科目を選択してより地域の学びを深めたいという希望が多いことを確認する。その後、教員・保護者の声を集めながらカリキュラムWGで今後の方向性についての検討を進める。
コンソーシアム会議 (令和4年12月23日)	委員から小学科普通科においても学校設定科目で実施しているより深い探究的な学びができるかの質問があり、対応できるような課程を検討中と回答。カリキュラムWG中心に小学科を地域社会学科(仮)に一本化する検討を本格的に進める。
第4回学科編成委員会 (令和5年1月26日)	小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、小学科普通科2学級をともに地域社会学科(仮)とし、進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高める方向で進めることを確認する。教育課程編成については、カリキュラムWGを中心に進める。

#### オ 学科定員の変更

生徒ワークショップ、保護者、教員の科目選択を柔軟にしたカリキュラム編成を望む声に応え学科定員の変更を申請した。なお、申請時は、小学科地域社会学科(仮)1学級(40名)、小学科普通科1学級(40名)を設置予定であったが、小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、2学級をともに小学科地域社会学科(仮)(80名)とし、進路

(進学・就職)に関係なく科目選択の自由度を高める学科編成を目指すこととした。

#### カ 関係者への説明の実施

管理期間の岩手県教育委員会へは訪問指導の際、運営指導委員会及びコンソーシアム会議、学校評議員会へは、会議の際に進捗状況を報告している。なお、年度末の会議の際は、令和4年度の事業計画の報告を行った。

### (3) カリキュラムの検討内容

#### ア 新学科開設に向けて特色・魅力ある先進的なカリキュラム開発

新カリキュラム開発はカリキュラムWGを中心に進めており、以下に検討内容を記載する。

- (ア) 探究的に学ぶ科目の充実…これまで本校で研究開発を進めてきた総合的な探究の時間「三陸みらい探究」、学校設定教科の「地域みらい学」の深化に加えて新規の探究科目の設定及び既存教科においても探究的な学びを深めていく。
- (イ) 科目選択の自由度向上…大槌高校として学んでほしい必修科目を学んだ上で、進学・就職に関係なく生徒自ら学びに合わせて選択できる学校設定科目を準備する。
- (ウ) 社会教育の単位化…防災に関する学びや東京大学大気海洋研究所と連携した海に関する学び、地域でのボランティア活動等、社会での活動を単位化できないか検討していく。
- (エ) キャリア学習の充実…従来のインターンシップの取組からデュアルシステムへの転換ができないか検討していく。
- (オ) 復習科目の充実(リメディアル)…生徒の基礎学力の定着への要望は強く、それぞれの理解に応じて個別最適化された学習の実現を目指していく。
- (カ) 授業のオンライン履修の一部認可…限定的にオンラインでの履修を認めることで、生徒の学び方に合うような履修方法を検討する。教室に入ることができない生徒の学びの保障や本校で開講できない科目について外部の授業をオンライン受講することが想定される。

#### イ 新カリキュラム開発の課題

- (ア) 科目選択の自由度が高まれば教員のコマ数が増加するため、小規模校の人員でどうカリキュラム編成するかが課題となり、加配が望まれる。
- (イ) デュアルシステム導入にあたって、長期の就業体験受け入れ企業があるか確認が必要。
- (ウ) オンライン履修を認めた際、授業に参加しない生徒増も考慮して慎重な検討が必要。
- (エ) 次年度に向けて関係機関と調整を行い、早期の教育課程完成を目指したい。

#### ウ 総合的な探究の時間及び学校設定科目について

- (ア) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け  
令和元年度より「総合的な探究の時間」の先取りで「三陸みらい探究(5単位)」という学校設定科目を策定した。なお、令和4年度入学生からは「総合的な探究の時間(5単位)」を設置している。また、令和3年度からは5教科においても探究的な学びを教科横断的に実践する学校設定科目「ひよっこり表現島」「まちづくり探究」「くらしmath」「おおつちラボ」「Eパスポート」を設置した。探究的な学びを実践する5つの学校設定科目では各科目の特性を活かしながら地域課題を考え、解決方法を模索・表現することを目的としている。なお、本校ではこれら5教科の学校設定科目を総称して学校設定教科「地域みらい学」と呼んでおり、新学科における学校設定科目の中心に置く予定である。

#### (イ) 総合的な探究の時間、学校設定科目のカリキュラム開発体制について

地域連携は、地域協働学習実施支援員が中心となり週1回学年ごとに探究活動の進捗を確

認・検討している。この検討には校内に配置されているコラボスクール（公営塾）のスタッフも参加している。5つの学校設定科目についても定期的に授業公開や教員研修会を開催し指導内容・方法を情報共有している。

(ウ) 総合的な探究の時間、学校設定科目実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	通年実施											
三陸みらい探究 (1年生)	#1			#2		#3			#4		#5	
三陸みらい探究 (2年生)			#6	#7		#6					#6	
三陸みらい探究 (3年生)		#8	#9									

- #1：オリエンテーション    #2：ちょこっとマイプロ    #3：大槌発未来塾！  
 #4：ラーニングジャーニー    #5：探究発表会    #6：online 探究連携授業  
 #7：マイプロフィールドワーク    #8：職業インタビュー  
 #9：アカデミックオンラインディスカッション

(エ) 総合的な探究の時間、学校設定科目の内容について

大槌高校 地域との協働によるリベラルアーツカリキュラムについて

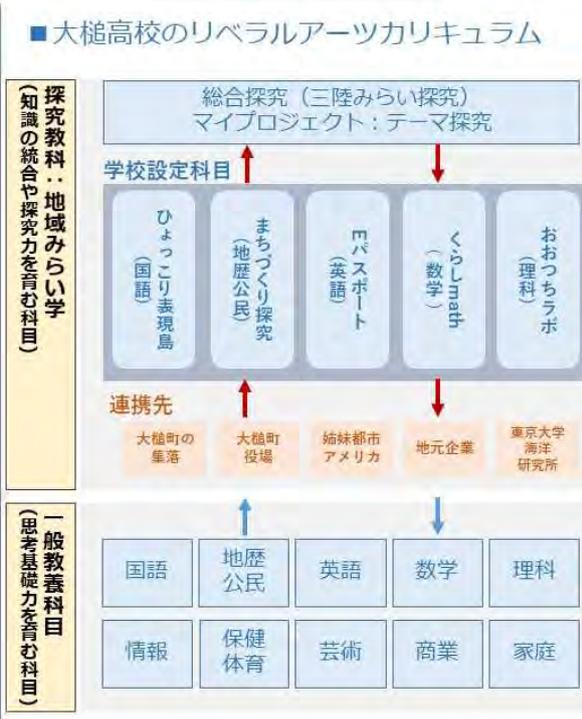
- 1** リベラルアーツとは？

リベラルアーツとは断片的な知識では役に立たない知識を互いに関連づけ、統合し、広く知識の交流をすることを通して批判的な思考力と創造的な発想力の涵養を目指す教育です。
- 2** 本校の目指すリベラルアーツカリキュラム

本校の立地する地域には復興や人口減少と解決の難しい課題が山積みです。実際に起こっている地域や社会の抱える複雑な課題に自ら問いを立て、教科で学んだベーシックな学力を活かしながら、探究することのできる力を育みます。
- 3** 学校設定教科「地域みらい学」とは？

地域みらい学の特徴は以下の4点です。

  - 主体性** 生徒が主体的に学ぶ題材と授業方法を行います。
  - 地域性** 地域で実際に起きている課題（オーセンティックな課題）を活用して、深く学んでいきます。
  - 横断性** 教科で得た知識を活用し探究的な学習を進め、その学習が教科学習に還元されるようにする。
  - 開放性** 発表会や映像など成果物や学びのプロセスを地域社会に広く発信していきます。



① 総合的な探究の時間、学校設定科目「三陸みらい探究」による資質・能力の育成

[1年生の活動]

総合的な探究の時間（2単位）で実施

時期	内容	各単元のねらい（連続性）
5月～7月	<u>自己紹介プレゼンテーション</u> 探究を進めていくために必要な課題設定力を育むために、自己発見・自己理解を通して自分なりの視点を獲得した。自分を紹介するプレゼンテーションを作成し、町内の中学生を校内に招いて発表した。	【表現し内省する】 相手に伝わるよう表現することを通して、自己を内省する。
8月	<u>1週間マイプロジェクト</u> 自分が普段気になっていることやチャレンジしてみたいことをテーマに、1週間で実施できるプロジェクトを企画し、アクションを通して解決できたことを振り返った。	【課題解決の枠組みを知る】 身近なテーマで小さなプロジェクトを実践し、課題解決の方法を知る。
9月	<u>大槌発未来塾！</u> 町内外で働く大人（大学生2名含む）10名が取り組むマイプロジェクトを聞き、今後の進路や、地域社会との関わり方について考えた。	【生き方を考える】他者の生き方に触れることを通して、自らの生き方について考える。
10月～2月	<u>SIMulation おおつち</u> 理想とする町の姿を考え、町内にある地域課題の解決策を構想した。地域課題は、町の総合計画に掲げられた分野に沿って大槌町議会に設定していただいた。10・11月には課題の理解を目的に、大槌町議会議員による講義や、町役場に対するヒアリング調査を実施した。12月には解決策の先進事例を知ることが目的に、町外の自治体や民間団体を訪問し、フィールドワーク調査を実施した。2月に、議員や役場職員、地域住民に対して解決アイデアを発表した。	【地域課題を知り、解決のための方策を考える】 町内の地域課題を題材に、課題解決のための方策を考え、提案を行う。

[2年生の活動]

学校設定科目「三陸みらい探究」（2単位）で実施

時期	内容	各単元のねらい（連続性）
5月～7月	<u>マイプロジェクト①テーマ設定</u> 短期間でのプロジェクト活動や大人への相談活動を通して、個々の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定した。 ・ちょこっとマイプロジェクト 個人で身近な題材から問いを設定し、1週間で調査を行い、得られた成果を報告した。 ・マイプロジェクト・フィールドワーク 自分のテーマと似た活動に取り組む地域の方を訪ねて、体験活動やアドバイスをもらうフィールドワークを実施した。	【マイプロジェクト探究に向けた課題を設定する】 個人の興味関心あるテーマを発見し、探究したい問いを設定する。
9月	<u>大槌発未来塾！</u> 町内外で働く大人（大学生2名含む）10名が取り組むマイプロジェクトを聞き、今後のプロジェクトの発展や卒業後の進路選択に役立てる機会とした。	【地域と探究を接続する】 地域課題解決のモデルケースに触れ、マイプロジェクトに活かす。

9月～2月	<p><b>マイプロジェクト②課題解決アクション実践</b></p> <p>課題解決に向けたアクションを行いながら設定した問いを探究することで、課題解決を行う資質能力を総合的に育成した。定期的に成果報告の機会を設け、考えを相手に伝える力を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ活動（9月～1月）</li> </ul> <p>課題設定から解決策実施までの流れを繰り返した。テーマに応じてゼミに分かれ、教員が分担して生徒の活動を支援した。また10月には活動の途中経過を発表する中間発表会を校内で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン探究連携授業（6月・7月・11月・2月）</li> </ul> <p>山形県・栃木県・熊本県の小規模校とオンライン接続し、互いの活動について発表しフィードバックする交流活動を定期的にも実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終発表会（2月）</li> </ul> <p>1年間の活動の成果をプレゼンテーションにまとめ、町民の前で発表した。</p>	<p>【アクションを通して課題解決を学ぶ】</p> <p>課題解決を行う資質能力を総合的に育成する。</p>
-------	--	--

### [3年生の活動]

学校設定科目「三陸みらい探究」（1単位）で実施

時 期	内 容	各単元のねらい（連続性）
4月～7月	<p><b>アカデミック・オンラインディスカッション（大学・短大進学、公務員希望生徒）</b></p> <p>2年生のマイプロジェクト探究で取り組んだテーマをさらに深めることを目的に、論文等を読みながら新たな問いを設定した。問いを深めるために議論したい専門家に依頼し、4～5人グループでオンラインディスカッションを実施した。</p> <p><b>職業インタビュー（専門学校進学、就職希望生徒）</b></p> <p>就きたい職業に必要な能力を理解することを目的に、生徒が関心ある職業人にインタビューを実施した。自分の現状と就きたい職業に必要な能力とのギャップや課題を把握し、今後身に付けたい力について構想した。</p>	<p>【マイプロジェクトを進路に繋げる】</p> <p>マイプロジェクトでの探究活動を軸に卒業後の進路を考え、必要な力を育成する。</p>
11月～2月	<p><b>18年間で身につけた“大槌（ハンマー）”と知見</b></p> <p>オープンダイアログや人生グラフの作成を通して、各生徒が18年間の人生で身につけた“大槌（ハンマー）”＝強み を自分の言葉で表現した。また、身につけた“大槌”や知見をプレゼンテーションにまとめ、探究活動等で関わった地域の方をはじめ、これまでお世話になったの方々に向けて発表した。</p>	<p>【探究での学びを総括する】</p> <p>これまでの探究活動や学びを整理し、自分なりの言葉で表現する力を身につける。</p>

#### ※課題や改善点について

ルーブリック評価については、生徒自身が目指したいと思う目標を項目として設定することが必要である。また、これまでルーブリックの項目数が多く、評価に多くの時間を要したが、ルーブリックを改善し、実用的なものとした。より目標に基づいた自己評価の機会を増やすなど、生徒自身が総合的な探究の時間を通じて目指したい姿を考える等の工夫を行うなど改善を続けなければならない。

② 学校設定教科「地域みらい学」の実施

総合的な探究の時間の代替である三陸みらい探究を軸にして、5教科に探究的な学びを実践する科目を設定した。学校設定科目ではそれぞれの教科の特性を踏まえながら、必要に応じて科目を横断的に接続しながら地域課題探究に取り組む。

科目名 学年・単位数	今年度の取組	今後の取組
<p><u>ひよっこり</u> <u>表現島</u> 2年生 2単位</p>	<p>〔他地域の生徒へのインタビュー調査〕全国で使用される方言を調査し、学級内で共有をし合うことを通して自らの地域以外で使われている方言と比較しながら、自らが無意識に活用している方言について理解を深めた。また、調べた内容と実際の方言の運用のされ方の差異を調べるため、他地域の方言を調べ、日常的に使うか、どのようなニュアンスで使うか、などの問いをオンライン交流を通して調査した。</p> <p>〔方言地図の作成〕「かばすぐねえ」「こっこ」など、一人一語身近な方言の使用の有無、使用場面について全校に調査をし、居住地域による差異があるかどうかを分析し、レポートにまとめ、文化祭で展示した。今後、保護者や他地域の学校にも調査の協力を仰いだり、年配の方などにヒアリングしたりすることを通して、より正確な地域ごと、地区ごとの方言地図の作成を目指す。</p>	<p>・今後、地域の年配の方などのヒアリングを通し、疑問に思ったことを異なる年代に質問する力を醸成させるとともに、活動を通して学んだことをレポートや発表を通して表現する機会を作る。</p>
<p><u>まちづくり</u> <u>探究</u> 3年生 2単位</p>	<p>4月から6月は、チームとして話し合うために必要なことや資料の読み解き方を学んだ。「都会と田舎どちらに住みたいか」「マンガの原作をアニメ化すべきか」というテーマで話し合った。6月から9月は、デザイン思考の方法を学んだ。地域の事業者の方をゲストに呼び、作業する際使いやすいベンケースのプレゼンテーションを行った。</p> <p>9月から11月は、学校の課題について考えた。問題と思われることを各グループでデータやアンケート等の根拠をもとに主張した。最終的に校長へのプレゼンテーションを行った。11月から3月は、町の課題について考える。</p>	<p>・今後は、民主主義制度や人権など社会的な課題とからめながら、身近な町の課題や復興に関わること、意思決定に関わることを考える機会を作る。</p>
<p><u>くらし math</u> 2年生 2単位</p>	<p>前期は、「根拠を持って判断をする」ための演習として、客観的なデータや数値に基づいて判断をする場面（生活費、コマづくり等）や、最適解が見つからない問に対して複合的な視点で考える場面（求人票の比較、宝くじの分析等）を設定し、学習した。また、データを用いて探究するための基礎技能として、グラフの活用・アンケート調査・Excelの扱い方について学んだ。</p> <p>後期は、グループ毎に自由に問を立て、統計・データを活用し考察するレポート課題に取り組んでいる。「大槌町と塩分摂取量」「大槌町の遊ぶ場所と満足度」「大槌で再開された祭への参加」などの町と関連したテーマでレポートを進める班も出てきた。</p>	<p>・地域に目を向けることができているグループに対して、よりよい地域のデータを得ることができるようサポートする。</p> <p>・集めたデータから知見を得ること、そして次の問い・調査に繋げる部分の伴走をする。</p>

<p><u>Eパスポート</u></p> <p>2年生 3単位</p>	<p>前期で身につける資質能力をジブント・課題設定と置き、ネイティブスピーカーの故郷であるカナダ・トロントに「留学をしてみる」ことをテーマに、E-Mail 文章、ホストファミリーへの自己紹介や持参するお土産やハンコを紹介するというプレゼンテーション資料の作成を行った。生徒たちは自分の伝えたいことを英語にして、英語を母語にする人にもコミュニケーションを取ることができることを学んだ。</p> <p>後期は異文化理解をテーマにハロウィーンや感謝祭について学んだ。今後はクリスマスやバレンタイン、イースター（復活祭）について学習して、理解を深めたい。また、外国人に大槌や大槌高校を紹介する英文の作成も検討している。また大槌で生活する外国人を授業に招き身近にいる外国人について意識をする機会を設ける。</p>	<p>・外国人に向けた大槌の紹介映像やHPの英語版製作に取り組む。また、より身近なテーマについて英語で表現する機会を設ける。</p> <p>・コラボスクールの協力を得ながら姉妹都市であるフォートブラック市との連携を図る。</p>
<p><u>おおつちらぼ</u></p> <p>3年生 3単位</p>	<p>「新型コロナウイルス」や「カーボンニュートラル」など、現在話題になっている時事問題をテーマに、論文や信憑性のある情報サイトから得られるデータを活用する方法を学んだ。また、日常生活の中での「便利/不便」に感じることや「不思議」なことから、調べてみたいテーマを設定し、仮説を立て、調べ学習によって検証する過程を学んだ。調べ学習で設定した仮説に対しては、自分なりに実験等を行い、データを活用した検証を行う過程を学んだ。</p> <p>地域課題とSDGsに注目し、17項目ある中の気候変動、再生可能エネルギー、海・陸の生態系等の理学的な到達目標に特化して調査を行った。まずは、国・大手企業・岩手県の取り組みの現状把握を行った。その後、町内のフィールドワーク（ジオ視察、岩手大槌サーモン養殖視察）を行い、取り組みの成果と課題について学んだ。今後は、自分の町をより持続可能にしていく視点を提案するため、他の自治体や企業で取り組んでいる前例を論文等から見つけ、効果の有無を検証し卒論ポスターとしてまとめる。</p>	<p>・郷土財エリアなどを題材に、ビオトープづくりに携わること自然保全について考える機会となる授業を組む。</p> <p>・次年度以降も担当教員の専門性を活かしたフィールドワーク先を検討する。</p> <p>（新山高原の風力発電施設、製造業種の地元企業等）</p>

※課題と今後について 上記学校設定科目は教科書がなく、授業者が年間を通して試行錯誤を繰り返しながら探究的な学びを軸においた指導計画を策定するため教員の負担感が大きい。そのため、教科担任でチームを組んでの指導・教材開発を継続し、定期的に全体での検討を行い、科目の目標を確認しながら、より深い探究活動が行える科目にブラッシュアップを図る必要がある。また、受講生徒の特性に応じた柔軟なカリキュラム策定が必要となる。

(オ) 探究交流授業について

小規模高校は地域資源と接続しやすいというメリットがある反面、自分と同様な興味関心を持つ生徒や教員と出会うことが難しいというデメリットがある。オンラインを活用することで学校の域を越え、同じような探究テーマで活動する生徒や、そのテーマに専門性を持つ大人と交流することが可能となる。そこで今年度は、マイプロジェクトを行っている小規模校4校が集い探究交流授業を行った。生徒の探究活動のジャンルごとにグループを作り、グループごとに発表・質疑を行った。次年度についても、小規模校等の連携を継続していきたい。

※連携校 山形県立小国高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校

(4) コーディネーターの配置および活動内容

ア カリキュラム開発等専門家について

菅野祐太（本事業予算を使って認定 NPO 法人カタリバへの業務委託） 週 4 日常駐

活動日程	活動内容
毎月 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大槌高等学校の職員会議等に参加</li> <li>・魅力化の取組の進捗や運営指導委員会やコンソーシアム等開催された会議の内容を共有</li> </ul>
不定期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科編成会議の協議進行</li> <li>・コンソーシアムによる魅力化に関する会議の企画・運営</li> <li>・ワーキンググループ事務局員として参加</li> <li>・町立学校コミュニティー・スクール等の会議に参加</li> </ul>

イ 地域協働学習実施支援員について

三浦奈々美（町から認定 NPO 法人カタリバへの業務委託） 週 5 日常駐

小野寺 綾（町から認定 NPO 法人カタリバへの業務委託） 週 5 日常駐

日程	内容
毎月 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大槌高等学校の職員会議等に参加</li> <li>・魅力化の取組について共有</li> </ul>
毎週 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2 年生の総合探究の企画・運営</li> <li>・教員と打合せを行い、次回の授業方針を決定</li> </ul>
年継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究のルーブリック評価の構築</li> </ul>
随時	活動の発表および紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中学校を訪問し中学生に高校を紹介</li> <li>・来校者に探究活動について説明・紹介</li> </ul>
令和 4 年 7 月～ 令和 5 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器の活用・管理</li> <li>・オンライン探究連携授業の企画・運営</li> <li>・ワーキンググループ事務局員として参加</li> </ul>
令和 4 年 7 月～ 令和 5 年 3 月	地域との協働による探究的な学びの企画・運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「マイプロジェクト・フィールドワーク」、「大槌発未来塾!」、</li> <li>「SIM おおつち町内フィールドワーク」、「マイプロジェクトアワード岩手県 summit」、「三陸みらい探究」等</li> </ul>
令和 4 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科改革支援事業の評価および集計・分析</li> </ul>

ウ カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付け

カリキュラム開発等専門家 1 名、地域協働学習実施支援員 2 名が職員室に席を持ち常駐している。入学者選抜関連以外のすべての会議に参加するなど、教員とともに教育活動を行っている。各学年に 1 人ずつ配置し、学年の活動に参加するなど、生徒の状況を把握しながら活動している。

エ 全国募集活動について

本校では「はま留学」という名称で生徒を全国募集している。コーディネーターが中心となり、副校長、担当教員、大槌町教育員会、生活支援員からなるチームとして動いている。年 4 回の地域みらい留学フェスタに参加している他、年 2 回のオープンスクールを開催し、

本校を留学生とその保護者に体験してもらう機会を設けている。なお、今年度は東京で行われた地域みらい留学フェスタに対面で参加した。

日程	内容
8月6日(土) 7日(日)	第3回地域みらい留学フェスタ
8月20日(土) 21日(日)	第1回はま留学オープンスクール (参加者：各県の中学生と保護者 4組)
9月3日(土) 4日(日)	第4回地域みらい留学フェスタ
9月23日(金) 24日(土)	第2回はま留学オープンスクール (参加者：各県の中学生と保護者 4組)
9月24日(土)	地域みらい留学フェスタ (NYC：対面)

(5) 管理機関による事業の実施体制や管理方法、支援体制

ア 管理機関による事業の実施体制や管理方法について

管理機関独自の予算措置を行うとともに、事業をきめ細かく実施できるように教員の配置等の人的支援を行い、定期的に学校を訪問して事業の進捗を確認し、必要に応じ指導助言を行う。

イ 管理機関における主体的な取組について

(ア) 管理機関（コンソーシアムを含む）における主体的な取組について

本事業予算からカリキュラム開発等専門家1名の配置

(イ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

本事業により開発した研究内容について、事業終了後も充実発展させていくとともに、管理機関により、所管する高等学校へ広く周知していく。また、学校設定教科及び学校設定科目の実施について、適切な教育課程となるよう指導助言を行う。

(6) 運営指導委員会の体制および取組

ア 運営指導委員会の体制

氏名	所属・役職等	備考
牧野 篤	東京大学教育学部 教授	教育専門家
佐々木 修一	富士大学経済学部 教授	学識経験者
福田 秀樹	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター 准教授	学識経験者
久坂 哲也	岩手大学教育学部 准教授	教育専門家

イ 取組に対する指導・助言等の専門家による支援について

年間2回の運営指導委員会を開催。委員からは専門的な観点から活動計画や評価方法・検証等について助言をいただき、活動の改善を図った。また、三陸みらい探究における生徒の活動に対して指導・助言をいただいた。

(7) コンソーシアムの体制および取組

通番	機関名	機関の代表者名
1	大槌町町長	平野 公三
2	大槌高校校長	継枝 斉
3	大槌町議会議長	小松 則明
4	岩手県議会議員	岩崎 友一
5	大槌町議会総務教民常任委員会委員長	芳賀 潤
6	株式会社千田精密工業取締役会長	千田 伏二夫
7	大槌町商工会会長	後藤 力三
8	一般社団法人おらが大槌夢広場代表理事	神谷 未生
9	大槌学園PTA会長	阿部 司
10	吉里吉里学園PTA会長	芳賀 新
11	認定NPO法人カタリバ代表理事	今村 久美
12	大槌高校同窓会会長	三浦 文雄
13	大槌高校PTA会長	小林 隆広
14	大槌町副町長	北田 竹美
15	大槌町教育委員会教育長	松橋 文明
16	大槌町教育委員	谷藤 怜美
17	大槌学園学園長	小石 敦子
18	吉里吉里学園中学部校長	浅沼 寿典
19	おおつちこども園園長	八木澤 弓美子
20	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター教授	青山 潤

ア コンソーシアムにおける取組について

- ・年3回のコンソーシアム会議を開催。復興推進のリーダーとなる人材の育成を目指し、大槌町役場、高等教育機関、地域、産業界、NPO等がコンソーシアムを構築し、協働して子どもたちの実践的な学びを支援しながら地域を活性化し、教育と地域復興の相乗効果を生み出すことで、新しい価値を創造できる人材を育成する。
- ・カリキュラムについてコンソーシアム会議において協議した。委員からの指導・助言を学学科編成に反映した。

## (8) 成果普及のための取組

### ア 他校交流

年間を通して多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携、全国募集、学校運営等について意見交換をする機会が得られ、本校の教育活動の参考にすることができた。

他校交流	実施日程
福岡県立ひびき高等学校来訪（防災学習・カリキュラムに関する意見交換） 来訪者：校長1名、教頭1名、教諭10名	8月18日(木)
宮城県中新田高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教員2名、コーディネーター1名	9月28日(水)
宮城県志津川高等学校来訪（防災教育・全国募集・公営塾に関する意見交換） 来訪者：教頭1名、教員1名、学校運営協議会委員2名	11月9日(水)
山形県立遊佐高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教諭1名、役場職員1名、コーディネーター2名	11月16日(水)
山形県立小国高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：教頭1名、教諭1名、コーディネーター1名	11月17日(木)
宮城県石巻西高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：教諭2名	11月22日(火)
堺市立堺高等学校来訪（探究学習・学校設定科目に関する意見交換） 来訪者：指導教諭1名、教諭1名	11月22日(火)
島根県立横田高等学校来訪（探究学習・全国募集に関する意見交換） 来訪者：コーディネーター1名	11月24日(木)
宮城県伊具高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：指導教諭1名、教諭2名	12月14日(水)
新潟県立阿賀黎明高等学校来訪（探究学習に関する意見交換） 来訪者：コーディネーター1名	12月14日(水)
立命館宇治高等学校来訪（普通科改革支援事業について意見交換） 来訪者：教諭1名	12月16日(金)
長崎県立松浦高等学校来校（普通科改革支援事業について意見交換） 来訪者：県教委指導主事1名、校長1名、教諭1名	2月6日(月)

イ 活動の内容や状況について学校ホームページやnoteで公開している。また、大槌町の広報誌に毎月活動の様子を掲載し町内へ広報している。

ウ 管理機関が実施する各種協議会等において本校の取組を周知し、地域と協働した教育活動による学校の特色化・魅力化を推進している。

エ 周知・広報WGにより町内各所に各探究発表会の案内、生徒の研究発表成果物の展示を行っている。

オ 毎年、地域協働についての研究協議会を開催し事業の成果を発表している。今年度は昨年度までのオンラインに変わって対面での実施となり全国から50名を超える参加があった。

カ 令和5年度については、新学科の内容を中学校、周辺住民に伝える広報活動を周知・広報WGを中心に進めて行きたい。

(9) 成果検証、評価

本事業申請時に提出した目標設定シートに準じて進捗状況の成果を検証する（高等学校）。

ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力を測るものとして設定した成果目標

下記指標に対する4件法によるアンケートの肯定的回答の割合

三菱UFJリサーチによる高校魅力化評価システムの調査結果から抽出したもの。

番	設問	R2 入学生		R3 入学生		R4 入学生
		R2	R4	R3	R4	R4
		10月	9月	12月	9月	9月
1	課題の発見と解決に必要な知識および技能	59.4%	66.7%	48.3%	63.4%	61.4%
	—自分で計画を立てて活動することができる	56.6%	64.6%	39.0%	64.3%	57.9%
	—現状分析し、目的や課題をあきらかにすることができる	62.3%	68.8%	57.6%	62.5%	64.9%
2	探究の意義・価値理解、地域社会との関わり合い	51.9%	61.5%	50.0%	57.1%	50.9%
	—地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	52.8%	62.5%	50.8%	57.1%	47.4%
	—誰かに言われなくても自分から勉強する	50.9%	60.4%	49.2%	57.1%	54.4%
3	課題発見・解決への指向	67.0%	70.9%	66.1%	68.9%	57.0%
	—情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	69.8%	75.0%	64.4%	69.6%	57.9%
	—地域や社会での問題や出来事に関心がある	64.2%	66.7%	67.9%	68.2%	56.1%
4	主体性・協働性	58.5%	64.6%	59.3%	62.5%	53.5%
	—忍耐強く物事に取り組むことができる	67.9%	70.8%	55.9%	64.3%	54.4%
	—自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる	49.1%	58.3%	62.7%	60.7%	52.6%
5	価値創造への提案と次へつなげる学び	64.3%	63.6%	55.7%	55.4%	45.6%
	—国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	47.6%	56.3%	37.7%	35.7%	31.6%
	—学習を通じて、自分がしたいことが増えている	81.0%	70.8%	73.6%	75.0%	59.6%

※R2・3入学生ともに課題解決に向けた知識・技能、地域社会との関わり合いにおいて向上が見られる。R4入学生は課題解決に向けた知識・技能が高い数値となっているが、価値創造への提案と次への学び、課題発見・解決への指向が低い数値となっている。

イ 目標設定シートについて（別添）

ウ 今後の自走に向けた方向性について（管理期間評価）

県教育委員会では大槌高校の普通科改革支援事業における地域協働の取組に注目している。地域との連携・協働、コーディネーターの配置、探究的な学びの充実及び目指す人材育成のためのカリキュラムマネジメントなど、県内の高校では最も先進的に取り組んできた。

高校魅力化評価システムの調査結果を岩手県全体のデータと比較すると、社会性に関わる項目についての大槌高校生徒の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく上回っている。

	大槌高校	岩手県平均
社会性に関わる学習活動	60.7%	50.6%
社会性に関わる学習環境	75.9%	66.8%
社会性に関わる行動	43.5%	40.7%
社会性に関わる行動（3年生のみ）	52.8%	42.2%

このことから、魅力的な学びの環境を地域と共に創るという事業構想の具現化が着実に進んでいると評価することができる。

また、学校の魅力化を図るために、地域、生徒、保護者、学校の職員等の意見を広く吸い上げ、熟議を重ねながら取組の改善を図っており、学校とコンソーシアムが協働しながら組織的に取り組んでいることは、県内の他の高校にとっても大変参考になると考えている。

次年度は令和6年度の新学科設置に向けてこれまでの取組を継続しながら、個別最適な学びと協働的な学びの効果的実現に向けて準備を進めていく。

【担当者】

担当課	学校教育室 高校教育担当	TEL	019-629-6140
氏名	前川 啓太郎	FAX	019-629-6144
職名	指導主事	e-mail	kei-maekawa@pref.iwate.jp

